

ホシエヌ製薬株式会社

2016年度環境活動レポート

(対象期間: 2016年4月～2017年3月)



作成日: 2017年4月1日
更新日: 2017年6月30日

目 次

□ ごあいさつ	-----	1
□ 環境・安全衛生に関する事項		
□ 組織の概要	-----	2
□ 認証・登録の対象組織・活動		
□ 主な環境負荷の実績		
□ 環境目標及びその実績	-----	3
□ 環境活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容	-----	4
□ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	-----	5
□ 代表者による全体の評価と見直しの結果	-----	6
□ 環境活動の紹介		

□ごあいさつ

昭和37年(1962年)。旧藤沢薬品工業(現アステラス製薬)の配置薬製造を目的として設立されました。以来、人々の健やかな生活に貢献することを基本理念に、より高品質の医薬品をつくることに専念してまいりました。2013年3月には田村薬品工業が親会社となり、田村薬品グループの一員となりました。現在では、医療用医薬品および一般医薬品など多品目を製造するまでにその事業規模を拡大しており、永年培った受託製造での知識と経験をもとにお客様に対して提案できる受託会社の実現を目指してまいります。また、弊社は奈良県の歴史的な地区に工場を持つ立地条件であり、人々の健康に奉仕する医薬品の製造工場として早くから経営上の重要な柱の一つと位置づけ、環境問題に取り組んでまいりました。これまでの取り組みの一端をご紹介します、弊社の環境保全に関するご理解をいただければ幸いです。

□環境・安全衛生に関する事項

基本理念

ホシエヌ製薬は、人々の健康で豊かな生活に貢献するため、環境保全と安全・衛生の推進に積極的に挑戦します。

環境・安全衛生方針

ホシエヌ製薬株式会社は、人々の健康に貢献する生命関連企業として、すべての事業領域で企業活動と地球環境の調和ならびに従業員の安全と健康の確保が経営の基幹要素であることを強く認識し、主体的に行動します。

1. 環境・安全衛生に関する法令、条例、協定などの遵守はもとより、自主基準を設定してその達成と環境負荷の低減(二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減、排水量の削減、化学物質の管理)に努めます。
2. 環境・安全衛生活動に対してマネジメントシステムを構築し、組織的、継続的に取り組みます。
3. 事業活動のすべての領域で、環境・安全衛生への影響を評価し、目的・目標を定めて継続的改善を図ります。
4. 環境・安全衛生に配慮した製品および技術の提案、ならびにグリーン購入の推進に取り組みます。
5. 継続的なリスク低減活動により、環境汚染、労働災害などの事故の予防に努めるとともに、緊急時においては迅速かつ適切に対応し、被害の拡大防止に努めます。
6. すべての従業員が環境・安全衛生に高い意識を持ち、自ら社会的責任を果たせるよう、計画的に教育・訓練に努めます。
7. 環境・安全衛生活動に関する情報を開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。

制定日： 2005年11月10日

改定日： 2016年4月1日

ホシエヌ製薬株式会社

代表取締役社長 西本 秋宏



□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

ホシエヌ製薬株式会社
代表取締役社長 西本 秋宏

(2) 所在地

本社・五條工場 〒637-0014 奈良県五條市住川町1380番地
高取工場 〒635-0153 奈良県高市郡高取町下土佐495番地1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 工場長 住吉 俊幸 TEL:0747-23-2533
担当者 総務部長 森田 正 TEL:0747-23-2533

(4) 事業内容

医療用及び一般用医薬品の製造販売

(5) 事業の規模

製品出荷額 28億円
主要製品生産量 460トン

	本社・五條工場	高取工場
従業員	139名	14名
延べ床面積	9,513m ²	3,660m ²

(6) 事業年度

4月～3月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: ホシエヌ製薬株式会社
活動: 医療用及び一般用医薬品の製造販売

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2014年度	2015年度 (基準年度)	2016年度 (レポート対象年度)
二酸化炭素総排出量 (※1)	kg-CO ₂	2,315,452	2,930,705	3,476,495
廃棄物等排出量	トン	67	87	81
廃棄物最終処分量	トン	3	3	3
総排水量(※2)	m ³	9,741	12,234	14,193
化学物質使用量	t	4	4	3

(※1) 電力の排出係数は、2014年度から0.522-CO₂/kWhを使用している。

(※2) 総排水量は地下水使用を含む。



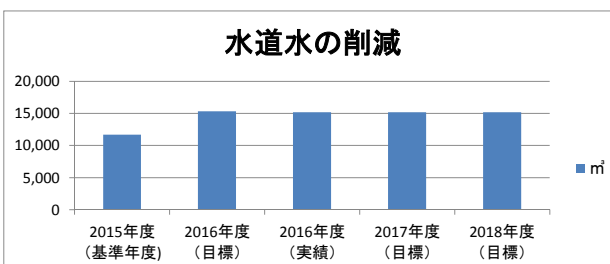
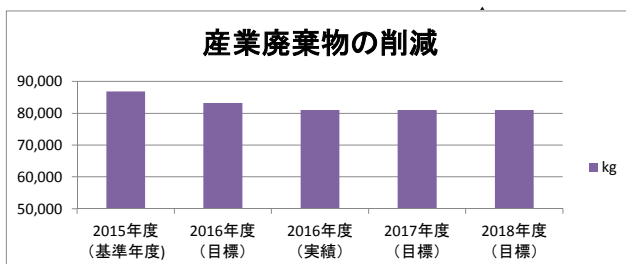
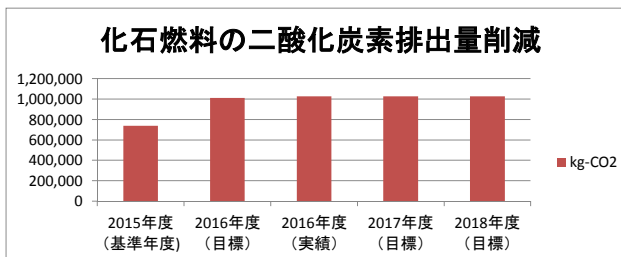
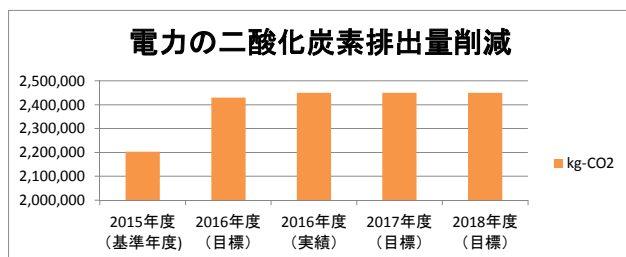
□環境目標及びその実績

全社合計

項目	年度	2015年度	2016年度	2016年度	2017年度	2018年度
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	2,203,532	2,429,985	2,450,205	2,450,205	2,450,205
二酸化炭素排出係数(0.522)	基準年度比		110.3%	111.2%	100.0%	100.0%
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	737,567	1,012,362	1,026,290	1,026,290	1,026,290
	基準年度比		137.3%	139.1%	100.0%	100.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	2,941,099	3,442,347	3,476,495	3,476,495	3,476,495
産業廃棄物の削減	kg	86,845	83,272	80,978	80,978	80,978
	基準年度比		95.9%	93.2%	100.0%	100.0%
水道水の削減	m	11,720	15,361	15,196	15,196	15,196
	基準年度比		131.1%	129.7%	100.0%	100.0%
環境へ配慮した技術提案	目標件数		年間 1件	年間 1件	年間 1件	年間 1件
化学物質の管理	目標テーマ		適正管理	逸脱 0件	適正管理	適正管理
グリーン購入	目標購入率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※2015年1月より環境効率指標による目標設定の廃止を行い、前年度の実績比で数値目標を定めることとした。
また、今後も増産計画があるため目標値については暫定とする。

環境負荷の推移グラフ



五條工場

項目	年度	2015年度	2016年度	2016年度	2017年度	2018年度
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	1,956,324	2,187,290	2,209,528	2,209,528	2,209,528
二酸化炭素排出係数(0.522)	基準年度比		111.8%	112.9%	100.0%	100.0%
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	713,644	991,817	1,005,607	1,005,607	1,005,607
	基準年度比		139.0%	140.9%	100.0%	100.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	2,669,968	3,179,107	3,215,135	3,215,135	3,215,135
産業廃棄物の削減	kg	79,528	78,037	76,727	76,727	76,727
	基準年度比		98.1%	96.5%	100.0%	100.0%
水道水の削減	m	6,773	8,974	9,287	9,287	9,287
	基準年度比		132.5%	137.1%	100.0%	100.0%
化学物質の管理	目標テーマ		適正管理	逸脱 0件	適正管理	適正管理
グリーン購入	目標購入率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

高取工場

項目	年度	2015年度	2016年度	2016年度	2017年度	2018年度
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	247,208	355,022	240,676	240,676	240,676
二酸化炭素排出係数(0.522)	基準年度比		143.6%	97.4%	100.0%	100.0%
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	23,923	20,545	20,683	20,683	20,683
	基準年度比		85.9%	86.5%	100.0%	100.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	271,131	375,567	261,359	261,359	261,359
産業廃棄物の削減	kg	7,317	5,235	4,251	4,251	4,251
	基準年度比		71.5%	58.1%	100.0%	100.0%
水道水の削減	m	4,947	6,960	5,909	5,909	5,909
	基準年度比		140.7%	119.4%	100.0%	100.0%
化学物質の管理	目標テーマ		適正管理	逸脱 0件	適正管理	適正管理
グリーン購入	目標購入率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

環境活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

数値目標：○達成(両工場達成) △やや未達(1工場達成) ×未達成(両工場未達成)

活動：○できた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	△	前年度よりCO2排出量が約11%増加した。増加要因として、五條工場では新規設備導入、新製品DSIやALDS5%の2シフト生産、夜間打錠により作業時間が伸びたことがあげられる。また、トラブルによる錠剤の回収作業により、回収設備や照明により電力の使用量増加につながった。高取工場では、設備や人員の増加に伴い、設備稼働や照明使用による電気使用量増加となった。しかし、電力削減の取り組みとして、2017年1月に高取工場の天井照明をLED照明に(241本)、2017年2月に五條工場の照明をLED照明に(520本)変更して電力削減に努め、月平均(理論)で消費電力約34,000kw、CO2排出量約17,800kg-CO2、電気代約53万円削減となった。
2016年度目標達成手段		
新製品(POP、DSI)の安定及び効率生産を目指す	○	
食堂消灯の徹底強化	○	
2017年度目標達成手段		
・既存製品の安定及び効率生産を目指す		
作業室消灯の徹底強化		
化石による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	△	前年度よりCO2排出量が約39%増加した。増加要因として、新製品DSIやALDS5%の2シフト生産、夜間打錠等で作業時間が伸び空調を長時間稼働した結果、使用量増加につながった。また、生産物量増加に伴い設備等の洗浄時間が増えたことで温水使用量が増加した。しかし、使用量削減の取り組みとして、五條、高取工場とも必要時のみボイラーの稼働や、通勤、出張時に社用車を控えて公共交通機関の利用を行った。
2016年度目標達成手段		
電力の削減に特化したため、達成手段未設定	-	
2017年度目標達成手段		
必要時のみボイラー稼働		
産業廃棄物の削減		
数値目標	○	前年度より産業廃棄物排出量が約7%減少した。新製品DSIやALDS5%の2シフト生産で生産物量が増加したことに伴い、再生紙やプラスチック、混合廃棄物等が増加した。また、トラブルにより個装ケースや錠剤やカプセルのシートを改装したことによる排出が発生した。しかし、削減の取り組みとして、新製品DSI A細粒仕込量サイズダウンを検討し1ロット約20kgの削減や、排水処理施設の汚泥排出量が年間約4t削減できた。また工程改善により新製品POP防水液調製量の削減により割増仕込を1.22倍から1.16倍に変更して調製量を削減し、原料購入費を年間約75万円削減できた。次年度も工期短縮、製造方法の変更(変更管理)による効率化並びに収率向上、作業者のスキルアップ(設備構造・製剤特性)を図り製造安定稼働により廃棄物削減を目指す。
2016年度目標達成手段		
新製品(DSI)の安定及び効率生産を目指す	○	
新製品(DSI A細粒) 廃棄細末の削減	○	
2017年度目標達成手段		
既存製品の安定及び効率生産を目指す		
新規受託製品の安定及び効率生産を目指す		
環境教育の充実(研究開発部員含む)		
ゴミ分別を推進し、廃棄商品を削減		
水道水の削減		
数値目標	×	前年度より、全体として水道水使用量が約30%増加した。高取工場では、精製水純粋装置等の設備や人員の増加に伴い、使用量が前年度は約30%減少から今年度は約19%増加した。また、漏水が2016年1月頃より発生したことも増加の原因となった(2016年8月に漏水修繕工事を実施)。五條工場において新製品DSIやALDS5%の2シフト生産等の生産物量増加や新製品POP本稼働に伴い、精製水や洗浄水等の使用量が増加した結果、使用量増加につながった。しかし、削減の取り組みとして、制酸力試験時に使用するピベッターを電動ピベッターに変更した。これにより、従来水流を利用したアスピレーターで試験を実施していたが、電動ピベッターに切り替えたことにより市水の使用量を約300L削減できた(年間約1000L削減見込み)。
2016年度目標達成手段		
新規設備導入時節水タイプ採用	△	
漏水対策実施	○	
2017年度目標達成手段		
新規設備導入時節水タイプ採用		
化学物質の管理		
数値目標	○	適正管理を行った。
2016年度目標達成手段		
化学物質の保管状況、使用量等を適正管理	○	
2017年度目標達成手段		
化学物質の保管状況、使用量等を適正管理		
環境へ配慮した技術提案		
目標	○	1件の技術提案提出があった。工程改善により新製品POP防水液調製量の削減により増量仕込を1.22倍から1.16倍に変更した。また、原料購入費を年間約75万円削減できた。次年度も工期短縮、製造方法の変更(変更管理)による効率化並びに収率向上、作業者のスキルアップ(設備構造・製剤特性)を図り製造安定稼働により廃棄物削減を目指す。
2016年度目標達成手段		
製品仕様(製造工程)において環境負荷が低減できる可能性を調査し、提案する	○	
2017年度目標達成手段		
製品仕様(製造工程)において環境負荷が低減できる可能性を調査し、提案する		
グリーン購入		
数値目標	○	グリーン購入の周知徹底や管理体制を整え、環境対応品購入比率100%を達成した。
2016年度目標達成手段		
グリーン購入を推進し、環境対応品購入比率100%を目指す	○	
省エネ活動、技術等の情報収集(随時)	○	
2017年度目標達成手段		
グリーン購入を推進し、環境対応品購入比率100%を目指す		
省エネ活動、技術等の情報収集(随時)		

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

弊社の五條及び高取工場に適用される環境関連法規は次の通りです。

適用される法規制	工場	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	五條	産業廃棄物(金属類・廃プラ類・廃油廃ガラス・汚泥など)、一般廃棄物(紙くず、生ごみなど)、特別管理産業廃棄物(廃アルコール)
	高取	
PCB特別措置法	高取	安定器
家電リサイクル法	五條	冷蔵庫、洗濯機、ブラウン管テレビ、エアコン、プラズマテレビ、衣類乾燥機
	高取	
自動車リサイクル法	五條	社有車
	高取	
フロン排出抑制法	五條	業務用冷凍冷蔵庫・業務用エアコン等
	高取	
省エネ法	五條	使用エネルギーは1500kL未満(原油換算)につき適用外
	高取	
騒音規制法	五條	空気圧縮機、送風機
	高取	
振動規制法	五條	空気圧縮機
	高取	
悪臭防止法	五條	イソブタノール・酢酸エチル・アンモニア・トルエン・キシレン
下水道法	五條	排水処理施設設置
五條市下水道条例		
水質汚濁防止法	高取	排水処理施設設置
浄化槽法	高取	生活排水浄化槽
公害防止協定	五條	廃棄物、工場排水、空気圧縮機、送風機、イソブタノール
毒・劇物取締法	五條	塩酸、苛性ソーダ、ヒドラジン他60物質
	高取	メタノール、塩酸、苛性ソーダ
PRTR法	五條	灯油中の含有キシレン及び1,2,4トリメチルベンゼン、アセトアミノフェン
消防法	五條	危険物製造所・危険物地下タンク貯蔵所・危険物屋内貯蔵所・少量危険物貯蔵取扱所・消防設備の設置
	高取	
高圧ガス保安法	五條	チラー、ガスボンベ、LPGバルクタンク
工場立地法	五條	敷地面積9,000㎡以上または建築面積3,000㎡以上

環境関連法規等の遵守状況の評価結果、環境関連法規等は遵守されていました。

関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。



□代表者による全体の評価と見直しの結果

2シフト生産や新規生産品の本格稼働、新製品検討により作業時間が増えた結果、電気及び化石燃料使用量が増加した。しかし、機器洗浄機や両工場でLED照明等の新規設備を導入した結果、CO2排出量や水道水使用量削減は一定の成果を上げた。次年度も2シフト生産による長時間勤務体制や従業員の増員により、環境の負荷が大きくなることが予想される。省エネタイプの新規設備導入や改善提案を積極的に行うとともに、環境教育を充実させて従業員個々の活動も積極的に実施していきたい。

□環境活動の紹介

工場周辺美化活動

定期的に工場周辺の美化活動を実施しています。



防災訓練

五條工場高取工場共に年1回訓練を実施しています。

けが人を想定した救助訓練や、水消火器を用いた消火訓練を行いました。

